

重点2 読書活動の充実

ねらい

子どもたちにとって、読書は、広い世界を知り、自分自身の考えを高め、豊かな情操を育み調和のとれた人間に成長していく上で、大きな価値のあるものです。

心を育て、ものごとに対する興味・関心を呼び起こし、想像力や、思考力・判断力・表現力などを豊かに育成するものとして、読書活動を推進します。

現状と課題

○ 1か月に1冊以上本を読む子どもの割合 (%)

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	平均
平成17年度	96.4	92.0	84.5	81.8	77.1	78.2	74.6	82.4
平成18年度	98.6	96.8	85.4	83.5	84.4	82.2	80.3	86.2
平成19年度	86.3	87.1	87.0	82.5	87.7	85.2	86.6	86.1
平成20年度	97.8	95.1	88.4	86.0	87.5	85.0	85.0	89.3
平成21年度	98.6	95.5	94.9	89.5	87.2	85.1	83.2	90.6
平成22年度	99.0	98.9	98.4	98.4	88.7	87.0	83.5	95.0

(平成19年度は「四日市市子どもの家庭・学校生活実態調査」による)

○ 学校図書館蔵書の状況

学校図書館の現状に関する調査	小学校	中学校
四日市市の蔵書数	386,779冊	218,193冊
四日市市の学校図書館標準冊数	376,120冊	243,600冊
四日市市の学校図書館の蔵書整備率	102.8%	89.6%
四日市市の学校図書館の図書標準達成校	40校中20校	22校中4校
学校図書館図書 標準冊数の達成率	四日市市	18.2%
	全国	42.7%

(四日市市の数値は平成22年度調査、全国の数値は平成21年度「学校図書館の現状に関する調査」による)

- ・ 図書館司書の活用や学校での日常的な読書活動推進・家庭読書推進により、読書量の増加が見られます。しかし高学年になるほど、その割合が下がる傾向であることから、発達段階に応じた読書支援や環境・機能の向上等を図る必要があります。
- ・ 学校図書館図書標準冊数の達成率が低いこと、依然として古い本が多く子どもたちが興味を持って図書に親しむ環境がなかなか整えられない等の課題があるので、図書館司書による読書支援や授業支援、なのはな文庫や物流等を活用し、子どもたちの読書習慣の形成に向けた取組を充実していく必要があります。

今後の方向性

○ 「学校図書館いきいき推進プラン」に基づいた学校図書館活性化の推進

- ・ 学校図書館を、読書に親しむことができる「読書センター」として、また、自発的・主体的な学習を支援し、情報の収集・選択・活用能力を育成するための「学習情報センター」として位置づけ、学校教育活動の中核に据える意識を持って、二つの機能を一層高めるための取組を進めていきます。

第3章 四日市市が特色として進めてきたもの

- ・ 学校図書館の活性化のために、学校図書館司書を継続して配置するとともに、学校図書館ボランティア等の協力を得て、各学校の司書教諭との協働を一層図っていきます。

○ 学校・市立図書館・地域・家庭が一体となった読書活動の推進

- ・ 「四日市市子どもの読書活動推進計画」の方針に掲げられる、「子どもたちの身近に本があり、人がいる風景」を整えるために、学校だけではなく、市立図書館・地域・家庭も一緒になって、子どもの読書活動を進めていきます。

主な取組状況

○ 子どもの読書活動推進

- ・ 学校、図書館司書、図書館ボランティア三者の協働
「学校図書館いきいき推進事業」により、市内の小・中学校62校に、週1日、専門的な知識を持つ学校図書館司書を配置し、各学校の司書教諭や、図書館担当者、ボランティアの活動を支援しています。司書派遣は6年目となり、館内が整備され、新刊本やおすすめ本の紹介、図書館祭りの企画などが充実し、子どもたちの図書室の利用が増えています。専門的立場から司書が助言をすることで、図書館運営の一層の活性化が進められています。
また、学校図書館ボランティアの協力も広がっています。特に小学校では、ほとんどの学校でボランティアが活動し、子どもたちの読書活動を支える環境の整備が図られ、読書活動の充実につながっています。
- ・ 一斉読書
始業前の約10分間に読書を行う「朝の読書」は、市内の全中学校に定着しています。小学校では学期ごとに行われる読書週間での「朝読」「昼読」など一斉読書や読み聞かせ活動が行われています。この活動によって、読書の習慣が身につき、学校生活を落ち着いて過ごす子どもが増えてきています。

○ 「学校図書館いきいき推進事業」による学校図書館司書の授業支援・家庭読書推進

学校図書館司書による「教科学習における調べ学習等に必要な書籍（資料）の適切な準備やその活用への助言」「子どもたちの実態や学習内容に合わせたテーマに基づくブックトークの実施」「家庭での読書を子どもにも保護者にも勧めるための便りの作成」などによって、学校図書館の学習情報センターとしての機能が高まっています。

*ブックトーク：一定のテーマを決めて、一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。

○ 効果

- ・ 長期休業前に図書館便りやおすすめの本の紹介を作成することで、本の選定に役立ったり、子どもたちが休み中も読書に進んで取り組んだりするようになった。
- ・ 子どもたちは、紹介してもらった本を興味深く読んでいた。いろいろなジャンルの本を読もうとしており、読書の幅が広がった。
- ・ 授業に必要な資料や季節に関係のある図書をテーマごとに目にとまりやすい場所に設置していただいたので、子どもたちが本を身近に感じ多くの子が手に取り読んでいた。
- ・ 歴史に関するブックトークや資料提供等が子どもたちの意欲を喚起し、調べ学習に有効であった。
- ・ 現在学習している内容に関連したブックトークを実施してもらったり、本の選び方のブックトークをしてもらったりするなど、そのあとに子どもたちが自分で発展活用できる。